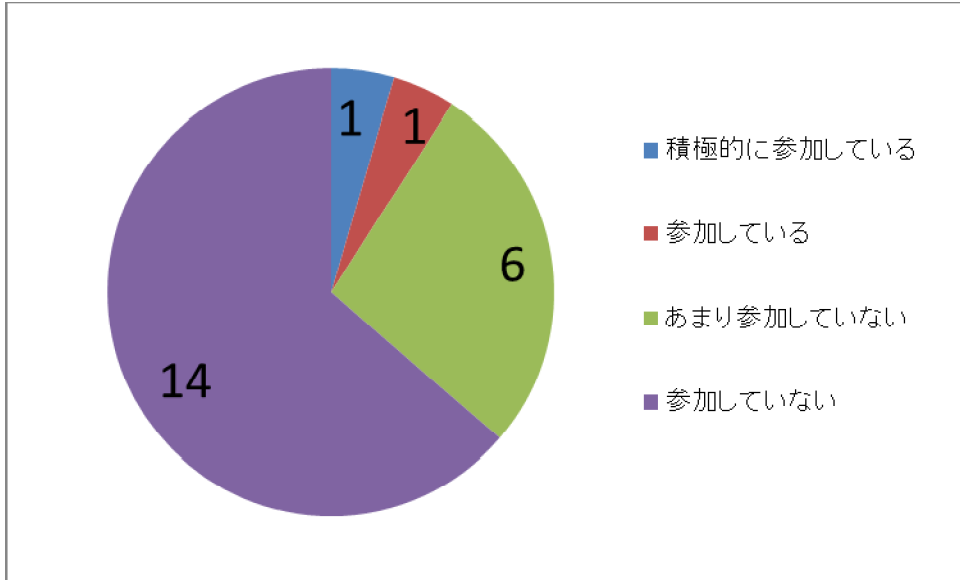


在宅医療・介護連携実施状況調査

三郷市薬剤師会アンケート集計結果

回答率：22/42薬局

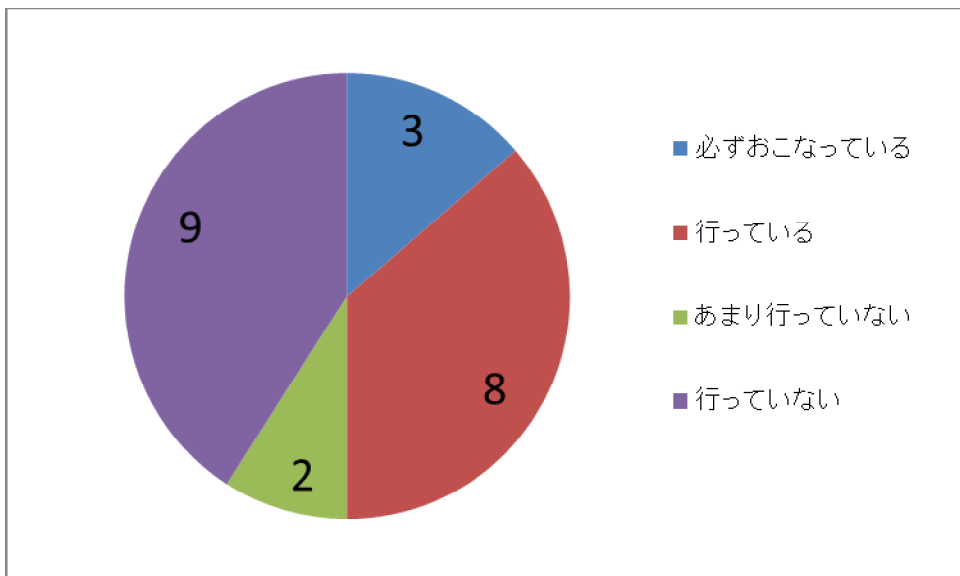
1. ケアマネジャーや医療相談員等が開催するサービス担当者会議やケースカンファレンスに参加していますか。



1 - 1. 「3」又は「4」を選んだ方のみにおたずねします。参加していない理由をお答えください。(複数記入可)

- ・参加する機会がない、打診がない
- ・声をかけてもらえれば参加したい
- ・時間が取れない、人員に余裕がない、一人薬剤師なので難しい
- ・会議があるかの情報がない

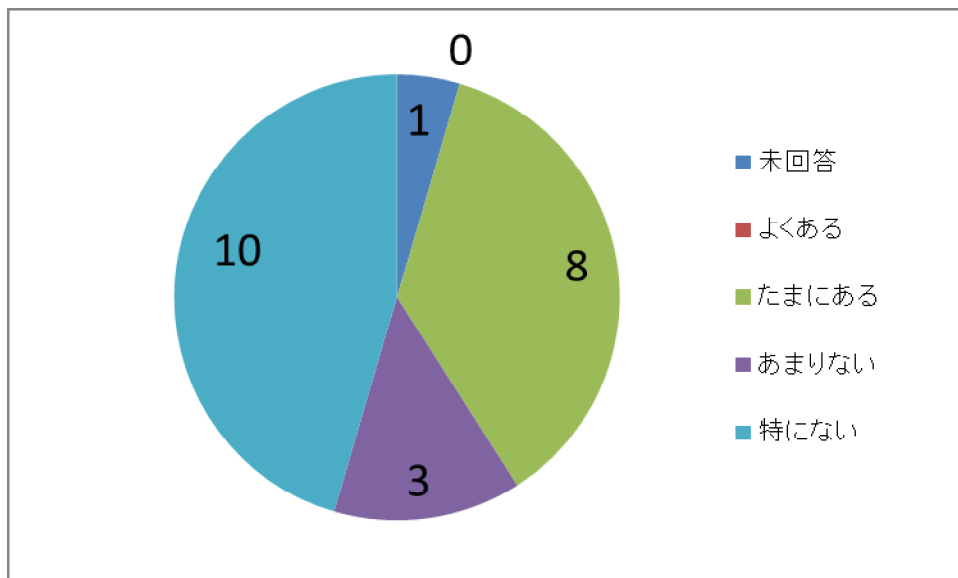
2. 患者のケアマネジャーと意見交換又は情報共有を行っていますか。



2 - 1 .「3」又は「4」を選んだ方のみにおたずねします。意見交換又は情報共有を行っていない理由をお答えください。(複数記入可)

- ・ケアマネの担当者が分からない
- ・機会がない
- ・患者個別に実施している

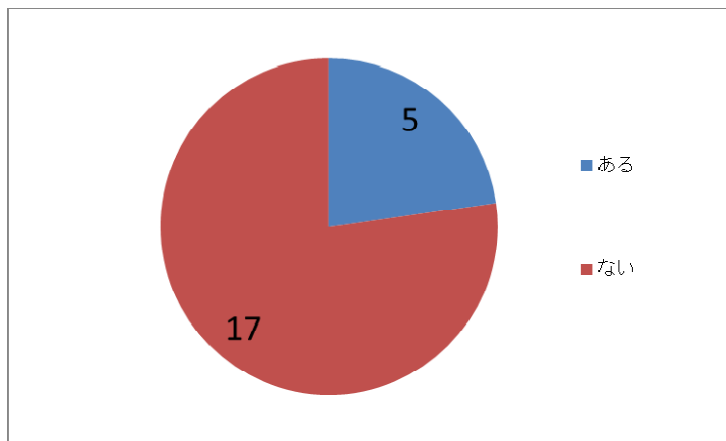
3 . 医療機関(主治医、訪問看護事業所を含む)や介護事業所と連携するにあたり、負担に感じることがありますか。



3 - 1 .「1」又は「2」を選んだ方のみにおたずねします。どういう時に負担に感じますか。(複数記入可)

- ・時間をとることが難しい、時間が合わない
- ・薬剤師数がないので日常業務に支障をきたす
- ・連絡がつかない、タイミングが合わない
- ・計画外の時間を取られ他業務に影響が出る
- ・意思疎通がうまくとれない
- ・連携方法が分からない
- ・施設により様式が異なるケース
- ・情報が不十分で多職種がどのように関わっているのが見えず、自信の方向性が明確にできないとき

4 . 医療機関や介護事業所との連携に際し、工夫している独自の取り組みがありますか。(例 独自の帳票を作成・使用している、連絡帳で情報共有している、など)



4 - 1 .「1」を選んだ方のみにおたずねします。差し支えない範囲でその取り組みをお答えください。

- ・往診にはできるだけ同行するようにしている
- ・コンプライアンス不良のため毎週お薬セットに行っていた
- ・震災などを考慮して残薬コントロールしている
- ・服薬率調整表を作成、服薬状況が客観的にわかるようにしている
- ・連携ノート、緊急のときは電話、手紙

5 .三郷市に住む高齢者が在宅生活を続けるにあたり、どのような仕組みがあれば医療と介護の連携が円滑に行えると思いますか。(例 連携を調整する相談員の配置、連絡の際に使用する帳票の書式の統一、など)

(自由記載)

- ・例にある通り、連携を調整してくれる相談員がいれば円滑に運ぶのではないか
- ・個々の生活にあった介護ができるためには、市役所、医師、ケアマネの尽力が必要です。まずは担当するケアマネと情報交換しやすい仕組みが必要だと思います。
- ・例のとおり、連携を調整する専門の人間が必要になると思います。
- ・在宅の薬剤管理が必要なのは初回や薬剤変更時などスポット的なことも多い。こんな時も臨機応変に対応できる仕組みを作って欲しい。
- ・いつでもどこでも空いている時間に連絡が取れるツールの導入
- ・書式の統一は必要
- ・独居の方や老々介護の方たちがたくさんいても周りに頼っていないケースが多い
- ・MSW さんやケアマネなどどんどん連携をとりあって一つ一つ解決できればいい
- ・医療連携がとても大切です。
- ・情報を共有するツールが欲しい。
- ・一人の患者さんに関わるすべての職種がいつでも情報を共有できるものが欲しい
- ・薬剤師が在宅訪問するにあたり、患者情報を医師、ヘルパー、看護師と共有しあえるような共通の日誌のようなものがあると良いと思う。
- ・医師への在宅報告書などの書式があると助かる

以上